

事務事業名	健康づくりポイント事業		事業期間	2018 ~	年度	係内番号	12
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康総務係	連絡先		330	

政策 番号	01	基本 計画 体系	項目	計画CD	計画名称	施策の 柱CD	施策の柱の名称	実行計画 の施策の 柱におけ る指標と の関連度	中					
			基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業							
			基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業							
			実行計画	05	健康づくり計画（一般会計分）	0101	がん対策							
予 算 事 業 名		健康づくりポイント事業			会計コード	01	款	04	項	01	目	03	事業	08
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		特定健診・がん検診を受診、保健指導を受ける、ダイエット講座、健康イベントに参加、健康講座に参加等でポイントが付与し、5ポイントで参加賞を進呈し、抽選で健康グッズ等が当たる。												
現状と背景 (どうして)		特定健診やがん検診の受診率がなかなか上がらないことや、健康イベントや講座の参加者も固定化し、新たな参加者が集まりにくいなどの状況があるために動機づけとして実施したい。また、国保の保険者努力支援制度でも、健康づくりに取り組むための個人のインセンティブ提供が求められている。												
目 的	受 益 者 (誰のために)	市民												
	対 象 (直接働きかけ る)	市民												
	意 図 (どんな状態にしたいか)	積極的に健康づくりに取り組む市民が増える												
手 段 ・ 方 法 (どうやって)	特定健診やがん検診等の受診、保健指導を受ける、ダイエット講座、健康イベントや講座に参加、禁煙外来に受診、献血、市内の飲食店で野菜たっぷりメニューを味わう等でポイントがつく。5ポイント集めて応募していただくと全員に参加賞を進呈。3月には抽選で60人に健康グッズが当たる。													
	行政が活動することで作り出すもの													
評 価 指 標 の 作 成	活動 指標	1	健康づくりに積極的に取り組んだ応募者数	指標名称	応募者数	単位	人	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	応募した人数	最終目標値	200			
		2												
		3												
	変更 履歴													
成 果 指 標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
	1	ポイント事業に参加して健康に対する意識が変わった人の割合	健康意識が変わった率	%	健康意識が変わった人÷応募した人	85								
	2													
変更 履歴	2018年度で目標85%を達成したため、2019年度からは90%を目標とする													

実 施 状 況 （ D O ） 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	1,041,403	566,339	1,145,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	1,041,403	566,339	1,145,000			
	活動 指標	応募者数	目標	人	200	400	600	
			実績		281	629		
			達成率	%	140.50	157.25	-	-
	-	-	目標					
			実績					
			達成率	%	-	-	-	-
	-	-	目標					
実績								
達成率			%	-	-	-	-	
成 果 指 標	健康意識が変わった率	目標	%	85	90	95		
		実績		87	91			
		達成率	%	102.35	101.11	-	-	
-	-	目標						
		実績						
		達成率	%	-	-	-	-	
備 考								

事務事業名	健康づくりポイント事業		事業期間	2018	～	年度	係内番号	12
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康総務係			連絡先	330	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		ポイントを貯めながら、楽しく健康づくりをすることで、健康に関する意識が高まった。	ポイントを貯めながら、楽しく健康づくりをすることで、健康に関する意識が高まった。		
価値	成果	ポイント事業初年度ではあったが、予想以上の応募があり、健康に対する意識が変わった人がほとんどだった。病気予防の効果が期待できる。	予想以上の応募があり、健康に対する意識が変わった人がほとんどだった。病気予防の効果が期待できる。			
	課題	広報等で周知を行ったが、市民の関心が低いため、更なる周知が必要。	応募者の中で、9%の人は、健康に関しての行動変容がなかった。9%の人と、応募者以外の健康づくりに対して無関心な人に、どのように働きかけていくかが課題。			
改革	成果	拡充	拡充			
	コスト	拡大	拡大			
改善の方向性	成果	・事業の内容が広く住民に知れ渡り、参加者増を見込んでいる。健康に対する意識改善が予防につながることで、医療費の抑制につながっていく。 ・健康意識の変容だけでなく、特定健診の受診率や、各講座の参加者数の増加につながっているか効果検証をしていく必要がある。 ・参加者数増加による参加賞の追加発注、応募用紙の印刷増などにより、コスト拡大の見通し。	・事業の内容が広く住民に知れ渡り、参加者増を見込んでいる。健康に対する意識改善が予防につながることで、医療費の抑制につながっていく。 ・健康意識の変容だけでなく、特定健診の受診率や、各講座の参加者数の増加につながっているか効果検証をしていく必要がある。 ・参加者数増加による参加賞の追加発注、応募用紙の印刷増などにより、コスト拡大の見通し。			
	コスト					
改善の方向性	成果					
	コスト					
策	策					
作成担当者	今井 由香	今井 由香				
最終評価責任者	柳澤 澄子	齋藤 明美				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	B・C型肝炎検査事業		事業期間	~	年度	係内番号	07
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係		連絡先	330	

政策番号	01	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業		
			基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	05	健康づくり計画（一般会計分）	0101	がん対策		

予 算 事 業 名	B・C型肝炎検査事業費				会計コード	01	款	04	項	01	目	03	事業	06
-----------	-------------	--	--	--	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
・40歳~85歳の5歳刻みの年齢の方を対象にB型、C型肝炎の早期発見のための検査を行う。

現状と背景
(どうして)
現在肝炎ウイルスに感染し、感染に気がつかないままに進行し肝硬変、肝がんに移行する患者がいるため。

目的
対象者 受益者 市民
対象 市民
意図 検査を受け早期発見、治療につなげる。
(どんな状態にしたいか)

手段・方法
(どうやって)
・B型、C型肝炎ウイルス検査を指定医療機関で実施する。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	対象者に通知を出す	受診者への通知率	%	通知数÷受診対象者数
	2					
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	B型・C型肝炎検査受診者数が増える	受診率	%	受診者数÷対象者数
	2					
	変更履歴					

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
			事業費等(a)	円	2,380,270	2,196,509	2,404,000	
財 源 内 訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円	1,621,000	1,567,000	1,706,000			
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	759,270	629,509	698,000			
活 動 指 標	受診者への通知率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	100	100			
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	-
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-
成 果 指 標	受診率	目標	%	25	25	25		
		実績	%	9	9			
		達成率	%	36.40	36.40	-	-	-
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-
備 考								

事務事業名		B・C型肝炎検査事業		事業期間	～	年度		係内番号	07		
担当部署		健康福祉部 健康づくり推進課		健康推進係			連絡先	330			
事後評価 （C H E C K） 改革・改善の方向性（A C T）	項目	2018年度（H30）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度					
	（成果） 変果 動指 要標 因分 （分析）	5歳刻みでの検査の実施が2巡目になっており、受診率も昨年とほぼ同様であった。	5歳刻みの年齢が対象で、昨年と同様の受診率だった								
	（成果） 総合評価	4・5・6月で5817人の対象者に検診票の発送を行った。検査の結果要精密検査になった人に対して、状況確認、受診勧奨を行った。	4.5月で対象者5732人に検診票を送付した。要精検の人に対して状況確認をし、症状がないからと放置しておくことと重症化してしまうこと等伝え、受診勧奨を行った。また昨年度要精検になり受診確認が取れない人へも状況確認を行った。								
	（課題）	対象者全員に通知することにより、自らのことと意識してもらえないような周知をしていく。早期発見し、重症化させないために必要な検査であるため、今後も多くの人に受けていただけるようにする。	受診票は、「申し込みをしていないが手元に届いた方」にとって分かりやすいもので、検査を行う医療機関の記入する手間も最小限にできるものへ改善する。								
	（成果） 翌々年度方向性	現状維持	現状維持								
	（コスト）	現状維持	現状維持								
（成果） 改善の方向性の内容の策	肝炎を早期発見し、重症化を防ぐためにも、まだ検診を受けたことがない人に受けてもらえるように個別勧奨通知を継続し、必要性を周知していく。	引き続き、肝炎を早期発見し、治療へつなげて重症化を防ぐよう検診の周知と個別勧奨をしていく。受診をして、要精検になった方のその後の状況確認を確実にし、受けつ放しにならないようにする。									
作成担当者	松見 沙織		松見 沙織								
最終評価責任者	柳澤 澄子		齋藤 明美								
最終評価年月日	2019年5月17日		2020年7月1日								

事務事業名	各種がん検診事業		事業期間	～	年度	係内番号	09
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康総務係		連絡先	330	

政策番号	01	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業		
			基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	05	健康づくり計画（一般会計分）	0101	がん対策		

予算事業名	各種がん検診	会計コード	01	款	04	項	01	目	03	事業	03
-------	--------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 ・胃がん検診（集団・病院）：胃バリウム検査
 ・大腸がん検診（集団・病院）：便潜血反応検査
 ・子宮頸がん検診（病院）：細胞診
 ・乳がん検診：マンモグラフィー検診（集団・病院）

現状と背景
 （どうして）
 昭和60年より死亡原因の1位は悪性新生物で変わらず推移。早期発見、治療のため、疾病への意識付けを、検診受診に結びつけることが必要。検診受診率低迷している。また、癌の罹患が若年化（特に女性）してきているにも関わらず受診率が低い。

目的
 対象者：市民
 対象：市民
 意図：早期発見、早期治療をすすめる。

手段・方法
 （どうやって）
 ・各世帯に検診のご案内を配布。広報ちの、回覧板、ホームページ等で周知する。
 ・申し込み者に案内通知を送る。検診期間中は随時検診のPRを行う。
 ・40, 50, 60歳の方には検診無料券を配り、受診のきっかけにもらう。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	検診受診の推進	無料券の配布	回	40歳・50歳・60歳に各種検診が無料で受けられる券を配布する。
	2	検診受診の推進	検診票の配布	回	40歳・50歳・60歳には、申込み前から検診票を送り、検診受診をしやすくする。	1
	3	検診受診の啓発	広報掲載回数	回		1
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	検診受診率の向上	検診受診率（国保）	%	受診者数÷対象者数（4月初旬時点の国保加入者のうち、検診の対象年齢者数）
	2					
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	35,608,396	38,243,625	38,175,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	1,722,400	1,606,600	1,697,000		
	一般財源	円	33,885,996	36,637,025	36,478,000		
活動指標	無料券の配布	目標	回	1	1	1	
		実績	回	1	1	1	
		達成率	%	100.00	100.00	-	-
	検診票の配布	目標	回	1	1	1	
		実績	回	1	1	1	
		達成率	%	100.00	100.00	-	-
広報掲載回数	目標	回	1	1	1		
	実績	回	1	1	1		
	達成率	%	100.00	100.00	-	-	
成果指標	検診受診率（国保）	目標	%	20	20	20	
		実績	%	不明	10		
		達成率	%	#VALUE!	50.00	-	-
		目標	%	-	-	-	-
	実績	%	-	-	-	-	
	達成率	%	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	各種がん検診事業		事業期間	~	年度	係内番号	09
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康総務係		連絡先	330	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		大腸がん検診(病医院)の受診者数が全ての年代で増加した。昨年度に引き続き、大腸がん検診の受診票を特定健診受診票に同封したことが効果的であったと思われる。また、40.50.60歳への無料券の配布により、受診者数は前年に比べ177人増加している。	目標値には達成しなかったが、受診率は増加した。4月の他の検診の案内送付時に、検診票を同封した(40・50・60歳の人)ことで、検診を受けてもらいやすくなったと思われる。		
価値	成果	回覧などを通した検診のPRは効果的であると思われる、継続していく。	受診票の同封は効果的であり、今後も継続していく。新たに、乳がんのチラシを保育園等に掲示してもらうことで、周知を行った。			
	総合評価	がん対策の目的は74歳以下のがん死亡率低下であり、若い年代の人に検診を受けてもらう必要がある。受診者が減少した乳房のがん検診について、対策が必要。	がん検診全体として、若い年代の人の受診率が低い傾向がみられるため、対策が必要。			
課題	課題					
	改					
革	成果	現状維持	拡充			
	コスト	現状維持	拡大			
改善の方向性	改善の方向性	随時申し込みがあるため、素早い発送を行い受診率向上に繋げる。手元に検診票が届くと、受診してくれる可能性が高くなると思われるため、申し込みが必要ない検診については、対象者へ通知を出し、受診してもらうよう努める。	市の検診を受けることで、個人で病院を受診するよりも「お得に受けられる」ことを周知することで、受診率向上に繋げる。「お得感」や「受け方」を伝えられるような案内通知やチラシを作成する。			
	内容					
策	策					
	策					
	策					
作成担当者	丹羽 朱里	丹羽 朱里				
最終評価責任者	柳澤 澄子	齋藤 明美				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				